



さとやま 2022年 夏号 (通巻159号)

■発行 特定非営利活動法人うしく里山の会  
〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1  
tel 029-873-8552 fax029-873-8552

■事務局 牛久自然観察の森内  
tel 029-874-6600 fax029-874-6812  
<http://ushiku-satoyama.org/>  
■編集 木谷昌史

# さとやま ~夏号~ No.159

特定非営利活動法人うしく里山の会 広報誌

1. 表紙 (ヒグラシの羽化)
2. お知らせ
- 3-5 プロジェクト活動報告
6. 裏表紙 (樹液に集まるノコギリクワガタ)

## 事務局からのお知らせ

### 第18回通常総会のご報告

令和4年5月20日（金）第18回通常総会を牛久自然観察の森ネイチャーセンターで開催いたしました。議案書に記載してありました全ての審議事項は、全て承認されたのでご報告いたします。

### 結束町みどりの保全区 「エコアップ」作戦参加者募集のお知らせ

牛久自然観察の森に隣接する牛久市結束町の「みどりの保全区」で行っている森林維持管理作業「エコアップ作戦」では、地域の皆さんの協力のもと、下草刈りや除間伐、風倒木の処理等を行っています。

4月から7月の活動は、幸運にも雨の日がなく雑木林の林床を中心に下草刈りを実施してきました。春期の夕暮れ時にはフクロウの鳴く声も聞こえ、餌場としての活用してくれているようで、活動しているメンバーにとっては小さな励みとなりました。

9～11月は下記の通り4回の実施を予定しております。雑木林の景観維持へのご協力を引き続き宜しくお願いいたします。

活動日：9月13日（火）、9月27日（火）、10月25日（火）、11月8日（火）

時間：9時～11時

集合場所：ネイチャーセンター 横の倉庫前

参加希望の方は：活動日の1週間前までに事務局までご連絡ください。

## プロジェクト活動報告

### 牛久自然観察の森指定管理者 幼児、自然体験活動報告

金久 由美

7月23日（土）「幼児 生きものミッケ！」～セミの抜け殻みつけた～を開催しました。「幼児 生きものミッケ！」は3歳～5歳の幼児対象行事で、2017年にスタートした「幼児昆虫教室」から名前や形態が変わりましたが今年で6年目を迎えました。

当日は定員8組・親子27名の方がご参加下さいました。はじめに知っているセミの鳴き声を聞いてみるとミンミン♪ ツクツクポーシ♪ ジジジジ♪と3つ出ました。凄い！カナカナ～♪とヒグラシの音声を出すと「知ってるー」と元気な声が聞こえました。あともう1つで、関東で聞こえる5つのセミの声が揃います。「今、上で鳴いているセミの声だよ」「？」「！」なんて聞こえるかなに「チーかな？」と答えてくれました。ニイニイゼミ チージー♪の鳴き声に耳を澄ませました。トレーに入れたセミのオスとメスの標本を見て、オスは鳴くために胸筋が大きくなっているのを確認。青い箱に入れたアブラゼミとニイニイゼミ抜け殻を虫メガネで覗いてオスのセミになったのか、メスのセミになったのかを観察しました。

続いてバッタの原へ虫探しに出発！体験後に飼育ケースを並べて見つけた虫の発表会をしました。自分の飼育ケースが紹介されると、とても誇らしくうれしそうなお顔をしていました。6cm程に成長したショウリョウバッタがどのケースにも入っていました。オオカマキリ、コカマキリもあと1回の脱皮で羽が揃いそうです。トンボかなと思って覗いたら珍しいツノトンボでした。まだ1cm程のオンブバッタ、モンシロチョウの夏型、ヒカゲチョウ、ヤブキリ、アブラゼミの抜け殻、アマガエルと今月もたくさんの虫達と出会えました。

最後に虫を野原に帰して生きものミッケを終了しました。これからも小さな子どもたちが虫との出会いを楽しく体験できるように活動して行きたいと思います



活動中の様子

### 雑木林応援隊 汗ダラダラ畑整備の活動報告

北寺 雄一

6月に入り連日暑い日が続いていましたが、早くも梅雨明け宣言が発表され、いよいよ夏本番。7月最初の活動報告です。

自宅を出て観察の森駐車場へ向かうとき、車中の温度計は外気温29度に達しており、「今日は木陰の作業に変更でありますように」と期待。（スケジュールではムジナの下草刈り）いつもより少し遅れて到着しましたが、私含めて2名だけで「今日は休みじゃないよな？」なんて会話していたときに更に2名合流。結局、集まったのは男性4名でした。っということでムジナの下草刈りは延期。その代わりに実の成らないキウイフルーツの枝選定（当方が担当）と畑の整備（他3名）を行うことになりました。（ぬか喜びに終わった）枝選定は1時間程で終わり、このとき気温は既に30度超え。その上炎天下。危険を感じたのは私だけ？他の方々はそれぞれの作業を黙々と進めており作業が早いです。

畑の野菜はこれだけ暑い日が続いているのに元気に育っており、会長が4回/日水やりに来ていたとのことでした。畑の整備内容は①手動散水から蛇口をひねれば散水出来るように改善。②ハンマーナイフで草刈り。③野菜植付け用の畝づくり。の三班に分かれて実施。私は畝づくりに合流しましたが、畝づくりは初めての経験で勝手が分からず、鍬で土を上げていく作業を教えて頂き実際に行くと、見た目よりもかなりの重労働で一畝が体力の限界。直ぐに水道水で手首から手のひらを冷やして洗顔、塩分チャージの飴をなめて水を飲む（熱中症対策）。一畝毎にこの繰り返しでした。（4人の中では一番若い私が一番の虚弱体質かも）

午前中で一通り整備が完了し、全員服が汗でビチョビチョでした。このような環境の中、皆で協力しやり遂げたあとは疲れもありますが、気持ちが良いものです。良いストレス解消になりました。



作業地の畑と森の景観

木谷 昌史

毎年、向台自治会サロンからの依頼を受け、ヘイケボタル観察出張出前講座を行っていますが、今年度も依頼があったので、講座の準備のため現地の下草刈り作業や安全確保のためのロープ張りなどを行いました。

作業箇所は、斜面林で覆われているためほとんどは日陰での作業ですが、6月の下旬ということもあり湿度は高く、汗を拭きながらの作業となりました。毎年行っている作業だけあって1時間もするとあっとい間に会場の整備がすすみ準備万端といった感じになりました。

ホタルの生息地は斜面林の下、年間を通して水が地面から染み出し小さな湿地を形成しています。ヘイケボタルの餌はモノアラガイやタニシなどの貝類で、現地では主にヒメタニシを食べているのではないかと思います。ヘイケボタルはゲンジボタルとは異なり、発光は微かで主に草の葉にとまって光り、その控えめな様に奥ゆかしさを感じます。一方飛びながら光るゲンジボタルの様は見応えがあります。私自身が「ホタルの鑑賞会」といえばゲンジボタルを連想してしまうのは上記の生態の違いではないかと思っています。

普段は藪に覆われている場所には、自生のヘイケボタルが残る他、ドジョウやサワガニも生息していて今では貴重な場所になりつつあります。生息地の面積は小さく生息数も限られるため地域の人に人知れず愛され、奥ゆかしく引き継いでいかれることでしょう。今年度の観察出前講座はあいにくの天気で中止となりましたが、来年以降も地域自治会からの依頼に答えていきたいと思えます。



現地での作業前の様子

夏の野山で見られた動植物



葉で休むジュウニヤホシテントウ



花にやってくるマメコガネ



実をつけるヤナギイノコヅチ



枝に擬態する茶色型のナナフシ



葉で休むササキリ



アズマネザサにとまるノシメトンボ



樹液にやってくるノコギリクワガタ



アズマヒキガエルの幼体



花をつけるヤブマオ



橙色の花が可愛いヤブガラシ



砂の中に潜むウスバカゲロウ



カブトムシのオスとメス



羽化後に羽を乾かすヒグラシ



実をつけるハナイカダ



池の縁でやすむツチガエル



コナラの木を登るカタツムリ